

2	<p>失敗に挫けず、前に進む力の向上 ふるさとを大切に思う気持ちの涵養</p> <ul style="list-style-type: none"> ○発達支持的生徒指導の充実 ○自己肯定感を高める教育の実践 ○海洋教育を中心としたふるさと教育の充実 ○いじめ・不登校未然防止、早期発見、早期解消のため、関係機関との積極的な連携体制の構築 	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は楽しい。」と答える児童の肯定的評価 	<p>児童アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (92.9%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「学校は楽しい。」と答える児童の肯定的評価が92.9%となり、7月よりも4.8%上昇した。児童提案型の取り組みで達成感を得ることができるようにしたり学校経営方針に沿った声掛けをしたりしたことによる成果だと考える。 ○「子どもの不安や悩みを理解し、個に応じた指導に取り組んでいる。」と答える教職員の肯定的評価は100%となった。休み時間に担任が教室で児童の様子を見守ったり、なかよしアンケートの結果を基に話を聞いたりするなど児童の気持ちに寄り添った対応を行っている。 ・「学校はいじめ・不登校のない楽しい学級づくりに努めている。」と答える保護者の肯定的評価は95.2%と、7月よりも下がった。信頼と理解を得ていくために、普段からこまめにコミュニケーションをとるとともに、トラブルがあった際は適時・適切な方法で情報提供を行う。なかよしアンケートやQUテストを基に、適宜面談を行っていく。 ・児童集会などの機会を利用し、自己肯定感を高める活動を計画的に行っていく。 ○「小木の町や海を大切にしようと思う。」の肯定的評価は100%であった。今後も児童の思いとねらいに沿った里海学習を計画的に行っていく。
		<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小木の町や海を大切にしようと思う。」と答える児童の肯定的評価 	<p>児童アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 		
		<p><満足度指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校はいじめ・不登校のない楽しい学級づくりに努めている。」と答える保護者の肯定的評価 	<p>保護者アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (95.2%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 		
		<p><努力指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの不安や悩みを理解し、個に応じた指導に取り組んでいる。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートで肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 		
3	<p>安全・安心な学校</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学校からの積極的な情報発信 ○地域と連携した防犯・防災体制の構築 ○防災教育の充実、生命にかかわる食物アレルギーへの組織的で確実な対応 ○健康や運動への関心をもち、体力が向上する 	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、子どもの事について気軽に相談できる。」と答える保護者の肯定的評価 	<p>保護者アンケートの肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (97.6%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「学校は、子どもの事について気軽に相談できる。」と答える保護者が97.6%であり、7月より2.4%下がった。引き続き、児童の様子を学級だよりやホームページで知らせるとともに、児童一人一人について、保護者の思いに耳を傾けながら、丁寧に対応していく。気になったことをためらわずに相談できる学校になるよう、継続して取り組んでいく。 ・「教育方針や子どもの様子が学校・学級だよりやホームページ等で分かる。」と答える保護者が95.2%であり、7月より2.4%下がった。ホームページの
		<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「外部機関における専門的な研修の機会を設け、知識や技能を習得している。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートの肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (88.9%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 		

	<p>教育活動の工夫 ○災害後の心のケアの重視 ○職員の危機管理体制の構築</p>	<p><成果指標> ・長座体前屈の記録の比較</p>	<p>6月の体力測定の記録より伸びた児童が A：80%以上 B：70～80%未満 C：50～70%未満（52%） D：50%未満</p>		<p>更新頻度が下がったためと考えられる。学校だより、学級だより以外にも、各学年の行事や授業等の様子を定期的に更新して伝えていく。 ○安全なまちづくりについて、里海科や学級活動等の時間を活用し、校外学習をしたり、調べ学習をしたりして児童の防災意識を高めながら防災教育を行った。</p>
		<p><満足度指標> ・「先生は、話を聞いてくれる。」と答える児童の肯定的評価</p>	<p>児童アンケートで肯定的評価が A：80%以上（92.9%） B：70～80%未満 C：50～70%未満 D：50%未満</p>		
		<p><満足度指標> ・「教育方針や子どもの様子が学校・学級だよりやホームページ等で分かる。」と答える保護者の肯定的評価</p>	<p>保護者アンケートの肯定的評価が A：80%以上（95.2%） B：70～80%未満 C：50～70%未満 D：50%未満</p>		
		<p><努力指標> ・「安全なまちづくりや洪水の危険、いざという時の備え等、防災を関連付けた授業を取り入れている。」と答える教職員の肯定的評価</p>	<p>教職員アンケートの肯定的評価が A：80%以上（100%） B：70～80%未満 C：50～70%未満 D：50%未満</p>		
4	<p>プロとしての自分を磨き、子どもに関わりきる教職員 ○服務規律の遵守 ○教職員の資質・授業力向上</p>	<p><成果指標> ・「職員研修で学んだことを積極的に校務に生かしている。」と答える教職員の肯定的評価</p>	<p>教職員アンケートの肯定的評価 A：80%以上（100%） B：70～80%未満 C：50～70%未満 D：50%未満</p>	A	<p>・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。」と答える児童が88.1%であり、4.8%下がった。児童がどこでつまづいているかを授業や宿題でしっかり見取り、休み時間や昼休み等を使って児童が理解できるまで教えていく。また、校内研修を活用して、児童のつまづきをどう解消していくか、引き続き授業力を向上させていくためにできることを考え、実践していく。</p>
		<p><満足度指標> ・「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれている。」と答える児童の肯定的評価</p>	<p>児童アンケートの肯定的評価が A：80%以上（88.1%） B：70～80%未満 C：50～70%未満 D：50%未満</p>		

		<p><努力指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「服務規律を遵守している。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートの肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 		
5	<p>多忙化改善・業務の効率化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○働き方改革の意識 ○業務の効率化の推進 	<p><成果指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の業務に見通しを持ち、 ム切や時間を意識して取り組んでいる。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートの肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 	A	<p>○どの項目も肯定的回答が高い結果となった。最終退校時刻や定時退校日を予め周知することで、仕事の優先順位を考え、見通しをもって業務を進める様子が見られた。また、ベテラン教員や中堅教員を中心に、教職員同士で声をかけ合ったり、助け合ったりするなどして、組織全体で業務を進めることが増えたことも要因の一つである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もICTを活用して、打合せや会議の効率化を継続して行い、教員が教材研究をしたり児童と向き合う時間を増やしたりできるようにしていく。
		<p><満足度指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「業務改善を意識し、業務の効率化を図るための工夫をしている。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートの肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80点以上 (100%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 		
		<p><努力指標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・「効率的に業務を行うために、 身辺(机まわり)を整理整頓し共有物の扱いにも気を配っている。」と答える教職員の肯定的評価 	<p>教職員アンケートの肯定的評価が</p> <ul style="list-style-type: none"> A: 80%以上 (90%) B: 70~80%未満 C: 50~70%未満 D: 50%未満 		